

E41 東海北陸自動車道 全線開通までの経緯



E41東海北陸自動車道は、E1名神高速道路とE8北陸自動車道を相互に連絡する延長185kmの高速道路で、東海と北陸、2つの経済圏を直結し、沿線地域の産業、経済、文化、観光等の発展と振興に寄与している重要な路線です。

全線開通までの経緯

1986年 (昭和61年)	3月 5日	岐阜各務原IC - 美濃IC開通 (4車線)
1992年 (平成4年)	3月28日	福光IC - 小矢部砺波JCT開通 (2車線)
1994年 (平成6年)	3月25日	美濃IC - 美並IC開通 (2車線)
1996年 (平成8年)	3月28日	能越自動車道開通により、小矢部砺波JCTで能越自動車道と直結
1996年 (平成8年)	4月18日	美並IC - 郡上八幡IC開通 (2車線)
1997年 (平成9年)	3月24日	一宮木曾川IC - 岐阜各務原IC開通 (4車線)
1997年 (平成9年)	11月10日	郡上八幡IC - 白鳥IC開通 (2車線)
1998年 (平成10年)	2月20日	尾西IC - 一宮木曾川IC開通 (4車線)
1998年 (平成10年)	12月13日	一宮JCT - 尾西IC開通 (4車線) 名神高速道路と接続
1999年 (平成11年)	11月27日	白鳥IC - 荘川IC開通 (2車線)
2000年 (平成12年)	9月30日	五箇山IC - 福光IC開通 (2車線)
2000年 (平成12年)	10月 7日	荘川IC - 飛騨清見IC開通 (2車線)
2002年 (平成14年)	11月16日	白川郷IC - 五箇山IC開通 (2車線)
2005年 (平成17年)	3月19日	美濃関JCT開通、東海環状自動車道と接続
2008年 (平成20年)	7月 5日	飛騨清見IC - 白川郷IC開通 (2車線)、全線開通

最後の難関工事 飛騨トンネル

糸糠(もみぬか)山を貫く飛騨トンネルは、延長が10,710mの長大トンネルで、道路トンネルとしては国内2位 (完成当時)の延長を誇っていました。高い土圧と大量・高圧の湧水に悩まされ、たぐいまれな難工事となり、貫通までに約9年半を要しました。



最大で毎分71トンにおよぶ高水圧の湧水の状況



4車線化工事、付加車線設置工事を進めています

E41東海北陸自動車道の白鳥IC～飛騨清見IC間において、暫定2車線区間の4車線化工事を進めており、2018年度 (平成30年度) に完成する予定です。4車線化が完成すると、同区間において発生していた交通集中による渋滞はほぼ解消され、また上下線が分離されることで、対向車線への飛び出し事故がなくなるなど、走行性や安全性が大きく向上します。

同じく飛騨清見IC～小矢部砺波JCT間の一部区間においては、4車線に拡幅する付加車線設置工事を進めています。